

「山口と世界」と環境配慮活動への取組

藤原 勇
鳥越 薫

要旨

共通教育の「山口と世界」は「山口」がキーワードである。著者は更に「環境」をキーワードに、環境教育の発展や自然豊かな山口のアピール等を目的とした「環境配慮活動計画作成」の課題を与え、その成果の実践例を紹介する。本学の環境マネジメントは環境マネジメント対策部会が中心になって環境配慮活動を行っているが学生の参画は少ない。この授業後に有志で部活，サークル，ボランティア活動において多くの学生に活動してもらいたいと考えている。

キーワード

共通教育，環境，山口と世界，環境活動の活性化

1 緒言

共通教育では「山口と世界」の授業が開講されており，主に国際総合科学部，教育・支援機構の教員が担当している。授業の進め方は各先生に任せられ，令和4年からSTEAM教育も導入され約60人のクラス編成となった（川崎勝，2023）。著者はこの授業を環境マネジメント促進（藤原勇，鳥越薫，2023）の起爆剤になるかと考え，さらに「環境」をキーワードとし，プロジェクト計画を作成して進めるように指導している。ここでは「山口」を山口大学，平川地区，湯田温泉，山口市内から全山口県までの範囲とし，この範囲で環境配慮活動，山口の自然のアピール等の計画を進めてもらっている。グループと個人の両方の発表を課して，それぞれの評価は学生の意見を含めて行っている。学生は，ごみの収集からリサイクル活動，廃棄物の再利用，山口の自然体験，町の環境整備等のアイデアを出しプロジェクトを進めており，身近に出来る事から地域や自治体を巻き込むまでのテーマを決めて取り組んだ。

「山口と世界」のクォーター授業ではプロ

ジェクト計画を作成するには時間が少なく，メンバーも教員が予め振り分けている中での作業となる。この授業の後にはここで行ったプロジェクトの立案を単なる授業中だけで無くさらに部活，サークル，ボランティア等で環境マネジメントを発展して欲しいと考えている。

2 「山口と世界」の授業

2.1 「山口と世界」の授業

著者は共通教育の「環境と人間」を担当しており，山口大学の環境配慮促進活動について講義（藤原勇，鳥越薫，2023；藤原勇，2022）を行い，本学の環境マネジメント活動の概要及び本学の環境報告書の内容を説明している。一方，学部横断の学生からなる「山口と世界」を令和元年から約40名(Q3)の学生相手に，令和4年から約60名(Q3, Q4)の学生を担当している。1グループを5から7人とし，他学部が混在するように割振っている。グループは大部分が1年生でそれぞれ専門分野に対して自覚を持ち，彼らは専門分野を生かした分野への就職に期待を持っている。学生の考え

方の背景には専門分野の片鱗が感じられ、多様な意見が出ていると思われる。授業だけではプロジェクト企画を十分検討する時間は少ない現実は周知の通りである。

2.2 プロジェクト計画

表1 令和元—3年プロジェクトテーマ

令和元年	1	ゴミの分別
	2	減らそう放置自転車
	3	捨てないで、あなたが持っているそのバック
	4	野菜を食べよう
	5	環境を活かしたイベント
	6	ひらけ虫のみらい
令和2年	1	ニジマス捕りキャンプツアー ～ごみ拾いで自然を守ろう～
	2	星空キャンプ 環境に目を向けよう!!
	3	巡って集めて知る, 山口
	4	物々交換会
	5	減らせ野良猫! 増やそう地域猫!
	6	リサイクルで灯籠祭り
令和3年	1	ホテル保護キャンプでホテルを守ろう!
	2	増やそうエコバッグ
	3	地産地消促進プロジェクト
	4	蛍を守って 地域も活性～save the hotaru～
	5	山口かっぱ酒プロジェクト

表2 令和4年プロジェクトテーマ

令和4年	1	山大春のバザー祭りリユースで生活を豊かにしよう
	2	山口の良さを全国に
	3	廃材クッキング
	4	明るいまち山口
	5	クロツラヘラサギを守ろう!
	6	減らそう外来種
	7	自然を楽しもう!
	8	山と体をきれいにしよう
	9	みんなで減らそう車からのCO ₂ 排出
	10	エコバック推進
	11	身近なフードロスを減らそう
	12	大学生の分別意識調査
	13	資源ロスを減らそう
	14	ゴミの分別で地球をきれいに
	15	減らせ竹害! 活かせBamboo!
	16	フードロスを解決、地球で料理
	17	新生活へ向けてのユース
	18	無くそう食品ロス
	19	楽しくエコ活!
	20	次世代につなごう

プロジェクトテーマの選定は自由である。プロジェクトテーマを表1-3に示す。最初いくつかのグループではテーマ決めを迷っている事もあるが、過去のテーマ例を学生に示した後はおおよスムーズに決まっている。学生の山口大学に入学後の生活環境評価は良く、生活で感じたこと、入学時に交通の不便

さを思ったことがプロジェクトのテーマ決めの要素になることが多い。

表3 令和5年プロジェクトテーマ

令和5年	1	山大生が盛り上げる山口の自然
	2	エコクッキング エコで地球を救う～家庭からSDGsへから
	3	虫で食料危機を解決しよう
	4	コンポストで地球を救おう!
	5	海洋ゴミ再生計画
	6	ホテルを守ろう
	7	マイボトル持参運動
	8	ゴミでも輝ける
	9	地域の年末大掃除
	10	湯田温泉街に駐輪場を作ろう
	11	環境でつながる輪～山口の海から～
	12	地産地消で環境に優しく
	13	防災意識を高めよう
	14	集めて、作って、自然に貢献!!
	15	PETハウス
	16	ペットボトルと生ゴミをリサイクルして花瓶をつくろう
	17	Sightseeing Environment Attraction
	18	スポット巡り
	19	めぐって知ろう山口の自然
	20	夜の道を快適に!

2.2 授業計画

表4 授業内容

	授業内容
第1回	概要説明, グループ決, 自己紹介
第2回	グループ毎計画の策定
第3回	グループ毎計画の策定中間発表準備
第4回	中間発表(前半)と反省,
第5回	中間発表(後半)と反省,
第6回	グループ毎計画の策定 グループ最終発表の準備
第7回	グループ最終発表 全員評価
第8回	個人発表 全員で評価

「山口と世界」は8週間で授業を完結するために、授業計画(表4)に基づいて進めている。限られた時間でグループ活動を通してプロジェクト計画を作成するには時間が足りないが、授業に多くの要望を詰め込むことは難しい。社会経験の少ない大学1年生である事からグループ活動がスムーズに行けばよいと思っている。第1週に自己紹介の中で山口の印象について一言話してもらい山口大学や大学ある山口市に対する思いを共有してもらっている。概ね山口市、山口大学は自然に囲ま

れて住みやすいが、交通が不便、虫が多い、大学周囲は夜の道は暗く怖い、と感じている事が多い。発表は中間と本番発表さらに最後に個人発表とした。グループ毎の活動を2回した後は中間発表となる。あまり時間がながい、プロジェクトの仕上げを考えると不十分感はある。早めに発表を体験することが良い刺激になると思う。また発表の機会を多くすることで、授業に緊張感をもってグループ活動に参加して欲しいとのこちらからの意思表示である。また、初発表の中間発表の質疑応答は、今後のプロジェクトの進め方で大事だと思っている。短時間で発表になる内容とはならないこともあるが、相互に発表・質問を聞くことでプロジェクトの完成度を上げることに役立つと思っている。最終の評価は学生と教員で一緒に行い。個人発表も良かった発表を学生が選んでいる。これらの結果を評価の材料として活用している。

3 結果と考察

3.1 環境配慮活動と「山口と世界」

山口大学の環境配慮活動は（藤原勇，鳥越薫，2023；藤原勇，2022），環境マネジメント対策部会（以下，「部会」）において具体的な方針・活動指針を決めている。山口大学環境報告書（以下，「環境報告書」）がその成果をまとめた物である。しかし，構成員の大部分を占める学生の部会への参画は未だ実現していない。一部の学生は環境配慮活動にボランティア行事で参画したい（藤原勇，鳥越薫，2023）との願望はある。また環境配慮活動を授業に組み込んで欲しい意見も多くあった。一方，「山口と世界」はグループ活動を伴う授業であり，「環境配慮活動」と融合できる授業として活用できると考えている。そしてグループ成果本発表は，機会があれば有志の教職員に聞いてもらい，プロジェクト計画への簡単なコメントをもらっている。また施設環境部職員に，本学の環境配慮促進活動

の簡単な説明を依頼している。これは授業後に更なる環境配慮活動を学生に促進して欲しい意図がある。

3.2 テーマ分析

表 1-3 のテーマを分析すると「山口」の意味が強調できていないが，手軽に出来る環境配慮イベント，SDGsに関係するものが含まれている。かなり自由度があるテーマが採択されていると思っている。これらのテーマを分類してみた。イベント会場の清掃とゴミの収集と分別。廃棄物の収集と再利用。これらの計画には，例えば，生ゴミから堆肥を作る。不用品を集めて加工して配布またはバザー。山口の自然を生かしたボランティア活動，山口県の範囲での自然の多い場所の観光。廃棄物の再利用からアクセサリ，エコバックを作るイベント，これらに地域の小・中学生から大学生まで巻込むイベントに関連する企画である。おおよその範囲に収まり，バリエーションは多い。「環境」のキーワードから学生が思いつく物として，ゴミを拾って清掃。さらに環境学習イベントを添付する。自然が多い山口観光スポットを組み合わせるツアー。ごみ・廃棄物を減らす工夫，廃棄物から小物を作る。これらにSDGsの区分を適用すると，海の豊かさを守ろう(14)，陸の豊かさを守ろう(15)，つくる責任つかう責任(12)，住み続けられるまちづくりを(11)が関連付けられる。本学の授業シラバスにはSDGsが3年前から記載されており環境配慮活動を意識できるようにしており，この「山口と世界」もSDGs活動に貢献している。

3.3 プロジェクト計画

プロジェクトを進めるには，概ねイベント当日までの前準備，当日，後片付けの工程がある，またイベントに伴う経費が必要となる。計画期間は準備期間も含む計画プランを作成するよう指導している。しかし，これまでにこの様な計画の経験少ないため，何をどうするか不安な学生は少なくない。グループの話

し合いで、まずはイベント当日の計画はすぐに企画内容に組み込めるが、準備についての計画がうまく組み込めない。また、当日のイベントのフローが曖昧なので参加者を呼び込めない感がある。イベント世話人数と段取り、準備と片付けの算段が難しそうである。また学生は経費の算出が苦手である。計画の実行には必ず必要経費の算段は必要である。会場の確保と使用料、イベント準備の小物・大道具の購入、貸出し費用の算段が必要である。金額が算出されないことがある。その場合はまずは考えられる項目の経費を算出するよう支持している。コストパフォーマンスは計画がおおよそ決定した時点で考えるべきことであるので、まずはプロジェクト計画が実行できそうかを考えるように指導している。

3.4 発表と反省

8回の授業の中でグループ毎に中間と本発表を2回行う。発表の評価は、「わかりやすかった。声がよく聞こえた。スライドやポスターが見やすかった。」について、計画については、「全体がまとまっていた。計画がユニーク。計画が遂行できそう。大学や地域の団体に提案できる。」について、さらに「参加してみてよい計画。計画がまとまっている、計画に具体性がある。中間発表に比べて進化した。コストパフォーマンスが高い。」を評価基準として判断する事を推奨している。

「山口と世界」は大部分1年生であり、計画作り、グループ発表、発表者との質疑応答することは慣れていない。従って、本発表だけではまとまった内容の発表は難しいとの配慮から、中間発表を行い、その反省を生かして本発表に望ませている。中発表では2回に分けて実施し十分な質疑応答の時間を割いた。また、他グループの発表を聞いて質問をすることで自分のグループの出来が判断できると考えられる。この過程を経験することで、プロジェクト計画のコメントを受けて、理解しにくい所、説明不十分な所が改善される事が

期待できる。本字発表で学生が企画したプロジェクト計画に、「学生が楽しいから参加したい」と思えるように工夫する知恵がつくと思っている。また、最終日は個人発表を授業計画に組み込みフリーライダーを防止する工夫をしている。またプロジェクト計画に対する自分の思いを1枚のポスター形式にして思いを約1分で発表する。学生はすべての発表に対して緊張している。全体を通してグループ活動に苦手な学生、質問にうまく答えられない学生もいる。主に計画を具体的に企画・検討していない点を指摘されていることが多い。この場合はうまくグループ内で助け合っで乗り切っている。また、最終グループ発表では中間発表に比べてとても充実した発表もあった。同時にあまり内容を詰められていない発表もある。学生は発表で何を伝えるかを意識して発表して欲しいと思っている。一方、個人発表は各自の考えがよく現れている。特に見た目、呼込みに工夫を凝らした感は伝わる。自分のプロジェクトをどう表現しようかと考えている様子は伝わっている。

3.6 環境配慮活動の活性化へ向けて

大学のカリキュラムには学部・専攻によって異なるが環境関連の授業が多く準備されている。本学の環境配慮活動を活性化するには学生の活動が必要である。しかし、自主的な活動としては、ボランティア、サークル活動が考えられる。実際に、ボランティア、サークル活動にて環境配慮、奉仕作業を行っている学生もいる。しかし、既報（藤原勇，鳥越薫，2023）で述べたように一部の学生は授業に組み込まれていて単位認定が希望する物もいる。「山口と世界」は中途半端ではあるが、簡単に実践できる授業であると思われる。この授業後に、同じ考えの有志で実際に行ってもらいたい。本授業がグループ活動を通して同じ考えの学生同士で活動を広げてもらうことを希望する。

4 結語

学生の環境配慮活性化の一手段として、共通教育の「山口と世界」の授業で「山口」と「環境」をキーワードに混合学部生で構成されたクラスで多様な考え方が出きるように設定したグループ活動を行い、環境配慮活動について学生に考えさせることができた。プロジェクトテーマとして、ごみ拾いと清掃にさらにイベントの添付。自然と観光スポットが多い山口を組み合わせたツアー。ごみ・廃棄物を減らす工夫、廃棄物から小物を作る。自然豊かな所にある本学はテーマとして問題なく、学生は多くのアイデアをもってプロジェクト計画を進めている。これらはSDGsの海の豊かさを守ろう(14)、陸の豊かさを守ろう(15)、つくる責任つかう責任(12)、住み続けられるまちづくりを(11)の区分に該当する。学生はプロジェクト計画を立案する経験が少ないこともあり時間は不十分であるが、最終発表まではプロジェクトをうまくまとめている。成果発表のできは多少ばらつきがあるが、共通教育の授業としてはこれでよいであろう。学生には今後さらに部活、サークル等で有志

の学生が集まって地域または学生を巻き込んだ環境配慮活動を進めてほしいと願っている。

(教育支援センター 准教授)
(施設環境部 副課長)

【参考文献】

- 川崎勝, 2023, 「「山口と世界」と STEAM 教育」, 『大学教育』第20号, 73-82, 山口大学出版.
- 藤原勇, 鳥越薫, 2023, 「学生主体の環境マネジメントの活性化について」, 『大学教育』第20号, 69-72, 山口大学出版.
- 藤原勇, 2022, 「学生生活の二酸化炭素排出量について—考察— 山口大学生の生活における二酸化炭素排出量—」, 『大学教育』第19号, 62-66, 山口大学出版.

【注】

- 1) 山口大学 STEAM 教育,
https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~dkikou/you_STEAM/index.htm
(最終閲覧日 2024年1月15日)